

生き生き

NO. 97 令和 2年 6月号 岡崎市現職研修生活科広報部発行

「具体的な活動や体験を通して・・・」

生活科部長 梅田 康典

学校に子供たちの元気な声が戻ってきました。3月から始まった臨時休業が2か月半に及び、その間に学校にも社会にも「オンライン○○」なるものが、いくつも現れました。今後、アフターコロナの時期がきても、「オンライン○○」はますます盛んになっていくでしょう。

生活科は、平成元年告示の学習指導要領で教科として誕生しました。それから30年余り、学習指導要領の改訂は今回で3回目ですが、四つの学習指導要領全てに共通していることがあります。それは、目標の冒頭部分が「具体的な活動や体験を通して、・・・・」で始まっていることです。活動や体験を通しての気づきを、表現や次の気づきにどのようにつなげるか、生活科で育成する資質・能力とは何か、この部分は30年間で少しずつ変化してきましたが、「具体的な活動や体験を通して」子供を育てることは30年間変わっていません。

5月下旬、登校してきた子供たちの様子を見るために教室を回っていたところ、ある教室で子供たちが教卓の周りに集まっていました。密集ともいえる状態でしたので、声を掛けようと近づいたら、モンシロチョウがまさに羽化する瞬間でした。羽化したチョウを見て、子供たちは「やった～」「良かった～」と歓声をあげました。私は、密集状態を気にしながらも、生命誕生の瞬間に立ち会うことができた子供たちを幸せだなと感じました。数日して、同じ教室を通りかかったら子供たちは自席に座り、テレビを見ていました。羽化しそうなサナギをカメラでとらえ、その映像がテレビに映っていました。担任が、飼育箱の周りに子供が集まることを避けてくれたのだと思います。この日も、羽化の瞬間、子供たちから歓声が上がりましたが、前とは比べ物にならない臨場感のない声でした。やはり、直接体験に勝るものはないのです。将来、「オンライン生活科」が出現するかもしれませんが、具体的な活動や体験あってこそその生活科です。今後も、活動や体験の価値を高める授業を展開していきたいと思います。

形埜小学校では、ササユリの保護育成活動に取り組んでいます。ササユリは日本を代表するユリの一つで、葉や茎が笹に似ていることからこの名がつけました。旧額田町の町花ですが、額田地区でもその数が大幅に減っていました。ササユリを増やそうと、形埜保育園の年長児と本校の3年生、「かたのササユリの里育成会」の方とで、毎年12月に種をまきます。順調に育てば7年後に花が咲きます。保育園児の時に種をまいたササユリが小学校を卒業する年に花を咲かせるのです。本校の学区である南大須町地内に、学区で一番のササユリ群生地があります。一面に咲いたササユリの鮮やかさと花の香りは、2年経った今も強く印象に残っています。本校3年生は、毎年6月中旬にササユリの観察に南大須群生地へ遠足に行きます。その頃が一番きれいなのです。その年の気候により満開の時期は若干異なりますが、満開になった時は一見の価値があると思います。詳細は、かたのササユリの里育成会事務局（形埜小学校）へお問い合わせください。

